

令和4年度 中学校教育研究会 自由参観

総合的な学習の時間学習指導案

指導者 北信教育事務所学校教育課指導主事 小川 浩貴 先生
共同研究者 信州大学学術研究院教育学系 教授 伏木 久始 先生
日時 令和4年5月13日(金)
授業学級 2年E組(41名)
授業会場 2年E組教室 (モニター: 2年D組)
単元名 「私の『14歳の問い』」
授業者 小林 輝紀

1	全体計画	総合1
2	3年間の構想図	総合2
3	総合的な学習の時間の研究テーマ	総合3
4	単元名・学年	総合3
5	単元の目標	総合3
6	単元の評価規準	総合3
7	総合的な学習の時間係として、全校研究テーマに迫るための仮説	総合3
8	単元展開	総合4
9	資料	総合6

信州大学教育学部附属長野中学校 総合的な学習の時間

実践者 小林 輝紀 中村 和孝
常田 浩二 佐々木清花

1 全体計画

<p>生徒・保護者・学校の実態</p> <p>【生徒】 課題と真摯に向き合い、追究する姿勢があり、意見交換が活発にできる。自己の考えが強く、受信する力が弱い。</p> <p>【地域・保護者】 教育への関心が高く、学校の教育活動に協力的である。</p> <p>【学校】 副校長をはじめ教職員は協力して教育活動に取り組んでいる。</p>	<p>学校教育目標 ともに学び 一人となる</p> <p>総合的な学習の時間 第1の目標</p> <p>本校の「総合的な学習の時間」の目標</p> <p>探究的な見方・考え方を働かせ、社会の未来や自己の将来に関わる総合的な学習を行うことを通して、自分の考えを広げ深めながら課題を解決し、自己の生き方を考えていくために以下のような資質・能力を育成する。</p> <p>(1) 社会の未来や自己の将来に関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活の中から、社会の未来や自己の将来に関わる問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 社会の未来や自己の将来に関わる探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、社会に参画しようとする態度を養う。</p>	<p>保護者・地域・教職員の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働的な学習を通して、自他を大切にできる態度の育成 ・体験的な学習の重視 ・探究的な学習の重視と、プレゼンテーション能力の育成 <p>関係諸機関との連携</p> <p>【1年】 公共図書館 地域企業</p> <p>【2年】 中小企業家同友会 災害復興対策企画委員会</p> <p>【3年】 地域企業 高校、大学などの教育機関</p>
---	--	---

探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力				
学年	単元名	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
一 学 年	持続可能な社会の実現に向けて (35時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会の実現には、そこに存在する問題が人々の生活や地域の特徴と深く関わっていることを理解することができる。 ・ウェブサイトから、検索ソフトを使って、必要な情報を収集することができる。 ・追究したことが自己の生活に関わっていることに気付くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における諸問題の中から自分が追究する課題を見出すことができる。 ・情報収集の手段のメリットとデメリットを理解し、目的に合った情報を収集できる。 ・グラフなどの適切な方法で整理できる。 ・探究過程をポスターやスライドにまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら設定した課題の価値に気付き、自分の意志で活動に取り組もうとする。 ・収集した情報の中から、伝えたいことを明確にして、ポスターやスライドを作成しようとする。 ・持続可能な社会を実現するために生活の中でできることを考え、取り組もうとする。
	はじめの一步を踏み出す私 (15時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・今の自分をつくりあげているものには、これまでの経験・体験、環境、家族、友、憧れなどの要因があることを理解することができる。 ・今の自分が様々な要因によってつくられていることから、これからの自分は自分でつくっていくことができることに気付くことができる。 ・啓発録の内容を、検索ソフトを使って調べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの自分を振り返り、課題を見出すことができる。 ・啓発録から、自分の生き方に共感できる考え方に情報を収集することができる。 ・他者の考えに対して共感できる点、できない点に分類し、その根拠を示すことができる。 ・自分の大切にしたい生き方を問い直し、まとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今の自分をつくりあげているものを振り返り、自分の特徴やよさを理解しようとしている。 ・「私の啓発録」について、異なる考えのよさや他者の考えの価値を受け入れ参考にしようとしている。 ・自己の生き方を考え、大切にしたい生き方を実践しようとしている。
二 学 年	14歳の私の問い (35時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で働く人々の生き方を自分との関わりで考えることは、自己の生き方を深めることにつながることに気付くことができる。 ・地域で働く人々の生き方とその理由を考える学習が、自己の生き方に深く関わっていくことを理解することができる。 ・収集した情報を分類し、分かりやすい方法で表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で課題を設定し、解決の見通しをもつことができる。 ・必要な情報を明確にし、目的に合った方法で情報を収集することができる。 ・目的に合わせて情報を分類したり、効果を意識して表現方法を組み合わせていくことができる。 ・目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、活動を振り返りながら、次時の活動に生かそうとしている。 ・自分の意思で、課題の解決に向かって、活動に取り組もうとしている。 ・地域で働く人々が大切にしている生き方と自分との関わりに関心をもち、今後の学習や生活の在り方を積極的に考えようとしている。
	私たちが考える災害に負けないまち (35時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に負けないまちの実現には、そこに存在する多様な問題に気付き、解決に向けて取り組むことが必要であることを理解することができる。 ・対象者が困ることと対策に関する調査を適切な方法で実施することができる。 ・追究してきたことが地域における自己の生き方に関わっていることに気付くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料や調査で収集した情報から課題を見出すことができる。 ・必要な情報を明確にし、効果的な方法を選択することができる。 ・収集した情報を分類し、それらを関連付けて解決に向けて考えることができる。 ・避難や避難所生活に関する調査結果を根拠に、自分の考えを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難や避難所生活における問題について、他者の意見を受け入れながら解決の見通しを立てようとする。 ・課題の解決に向けて、他者の調査内容を生かしながら、協働して取り組もうとする。 ・地域住民としての自覚を高め、誰もが安心して避難や避難所生活ができる方法を考えようとする。
三 学 年	これからの社会を生きる私 (50時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の生き方に対する考えを深めていくには、他者や社会との関わりが必要であることを理解することができる。 ・取り組んだ実践と自己の生き方との関わりについての理解は、探究的に学習してきたことの成果であることに気付くことができる。 ・実践に関する調査を、適切な方法で実施することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や自分自身の特徴、実践に関わる調査活動などで収集した情報を基に、実践計画を立てることができる。 ・必要な情報を明確にし、多様な情報収集の方法の中から効果的な方法を選択し、適切に情報を収集することができる。 ・収集した情報を整理しながら、課題の解決に向けて考えることができる。 ・実践から得たことを自己の生き方と関わらせて考え、スライドを用いて効果的に表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で設定した課題の解決に向けて見通しをもって取り組もうとする。 ・課題の解決に向けて、他者の意見や考えを尊重しながら、協働して取り組もうとする。 ・自己の将来に向けて、自分が目指す生き方を明確にしようとする。

<p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自己の生き方を考える」ことをテーマとした探究的な学習に取り組む。 ・課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の流れで学習を行う。 ・多様な表現方法を身に付けさせ、学習の成果を発表する場を設定する。 	<p>【指導方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の課題意識を連続、発展させる支援と個に応じた指導の工夫を行い、探究的に活動ができるようにする。 ・各教科等の関連を意識して、効果的な指導を行う。 	<p>【指導体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の活動の様子や活動予定などは、全職員が共通理解できるようにする。 ・単元に応じて学年体制をとり、複数の職員で指導を行う。 ・必要に応じて、外部の人材を活用する。 	<p>【学習評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視点を踏まえた単元ごとの評価規準を設定する。 ・ワークシートやレポート、振り返りの記述などの評価方法を用いる。 ・学年末には、指導計画の評価・改善を行い、次年度に生かす。
---	---	--	---

教科・領域との連携					
国語	社会	数学	理科	音楽	美術
自分の思いや考えを見直し、深い、目的や場に応じて効果的な展開を工夫し、適切に話し、文章として表現する。自分の考えを基に、構成を考え、正確に話し、文章として表現する。	必要な資料を様々な方法で集め、問題解決に必要な資料を取捨選択する。課題設定の仕方、問題解決の方法を多面的・多角的に考える。	課題解決のために、見通しをもち、筋道を立てて考える。数量や図形などに関する数学的な表現・処理の仕方や推論の方法を身に付ける。	観察などを通して、事象を実証的・論理的に考え、分析的・総合的に考察する。自然の事物現象を科学的に調べる方法を身に付け、それらの過程や結果を的確に表現する。	豊かで美しい響きや楽器の特質を生かして曲にふさわしい歌唱や演奏をする。歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌う。	自分の主題をもち、画面構成などを考え、生き生きと表現し、構想する。表現の意図に応じて材料や用具の特性、その生かし方を考えて表現する。
保健体育	技術・家庭科	英語	特別の教科 道徳	特別活動	
協働の経験を通して、公正・協力・責任などの態度を身に付ける。安全について考え、判断する。	地域の生活環境をよくするために、自分たちができる生活の工夫について考え、行動する。地域の生活に関心をもち、高齢者や幼児など異なる世代の人々との関わり方を学ぶ。	主体的にコミュニケーションを図る。自分の考えていることを簡単な英語で表現し、相手の言いたいことを理解する。	教材を通して自己をみつめたり、他者と対話したり協働したりすることを通して物事を多面的・多角的に考えるとともに、自分の生き方についての考えを深める。	望ましい人間関係と自他を尊重する集団の育成を図る。生徒一人一人の自主性と社会性を育成する。	

2 3年間の構想（太枠部分が本単元）

		自己を振り返る → 他者から学ぶ → 社会と関わる → 社会で生きる → 未来を見つめる			
		1 学年	2 学年	3 学年	
4	○総合的な学習の時間ガイダンス ※3年間の学習を通して、自己の生き方を考えていくことを確認する。	○総合的な学習の時間ガイダンス ※地域社会と関わりながら、自己の生き方を考えていくことを確認する。	○総合的な学習の時間ガイダンス ※これまでの学習を基に、これからの社会における自己の生き方を考えていくことを確認する。		
	「持続可能な社会の実現に向けて」	「私の『14歳の問い』」	「これからの社会を生きる私」		
5	○課題の設定 ・現代的な諸問題から関心のある問題を選択する。 ○情報の収集/整理・分析 ・どのような方法で情報が収集できそうか考える。 ・どのような方法で情報が収集できそうか考える。 ※中学校では一人でも探究のサイクルを回すことができるようになることを目標にする。 ＜探究のサイクル＞ 「課題の設定」 → 「情報の収集」 ↑ ↓ 「まとめ・表現」 ← 「整理・分析」 ☆友の探究の仕方（調査の仕方、整理の仕方、まとめ方等）で参考になったものを取り上げ、そのメリット・デメリット、効果等を全体で共有していく中で、探究の仕方を学ぶ。	○問題発見 ・「私の啓発録」を振り返る。 ・講演会① 中小企業家同友会常務理事 小林敬二さん ・講演会② 元プロサッカー選手 大橋良隆さん	○問題発見 ・理想とする自己の生き方に向けて取り組んでいる方の講演を聞く。 ・これまでの学習や自分自身の特徴を整理する。		
	○まとめ・表現（学級、学年発表会） ・友のアドバイス等を参考にしながら、自身の発表内容を振り返り、改善する。	○課題の設定 ・講演会を通して触れた生き方を基に、自分が追究する生き方を決め出す。→「私の『14歳の問い』」 ・自分が大切にしたい生き方を捉え直し、新たな課題（問い）をもったり、自分がすべきことを考えたりする（見直し）	○課題の設定 ・自分の学びや特徴をまとめたものを基に、追究テーマを決め出す。 ・実践の種類ごとにグルーピングされたコースに所属する。 (コース例) 【起業活動コース】…他社と新商品の開発 【交流活動コース】…保育園、福祉施設との交流 【貢献活動コース】…地域貢献、国際貢献への取組 【表現活動コース】…作曲、ものづくり活動		
6	○問題発見 ・持続可能な社会の実現に関わる問題に対して具体的な取組をされている方の講演を聞く。	○情報の収集 ・幼稚園や福祉施設などで仕事を体験したり、働く人にインタビューしたりする。(社会見学)	○情報の収集 ・各実践に合わせて必要な情報や収集方法を検討し、情報を収集する。(インタビューなど)		
	○課題の設定 ・これまでの探究や講演会を基に課題を設定する。	○整理・分析 ・社会見学に行く前と行った後の課題に対する自分の考えを比較する。	○課題の設定 ・収集した情報を様々な視点で整理しながら、今後の実践計画を検討し、9月の「附属中ワークショップ」までの見通しを立てる。		
7	○グルーピング ・課題の内容に沿って分けられたグループに所属する。 (グループの例) 「貧困」、「環境」、「平和」、「福祉」、「技術」	○まとめ・表現 ・社会見学での学習を基に、学級や学年の友と社会見学から得たことを語り合う。	○課題の設定 ・収集した情報を様々な視点で整理しながら、今後の実践計画を検討し、9月の「附属中ワークショップ」までの見通しを立てる。		
	○活動の見直し ・グループごと、ヒューマン・ウィークの中でどのような方法で情報を収集するか決め出す。	○課題の設定 ・学年内の発表会を終え、課題を見直す。 ・課題を追究するための見直しを立てる。 ・どのような視点をもって情報を収集していくか見直しを立てる。	○情報の収集 ・実践に必要な情報を、幅広く収集したり、実体験を積み重ねたりしていく。 ・外部の方との連携が必要な場合には、生徒自身が連絡を取るようになる。 ・調査していること、実践に向けて準備をしていることについて、専門的に取り組んでいる方の講演を行ったり、アドバイスをいただいたりする。		
8	☆持続可能な社会を実現するための問題を自己の生活との関わりで考える。	☆実践を通して地域で働く人々の生き方を自分との関わりで捉える。	☆持続可能な社会を実現するための問題を自己の生活との関わりで考える。		
	＜ヒューマン・ウィーク＞ ○課題に合わせた「情報の収集」を行う。 ○「整理・分析」を行い、前回のポスターによるまとめを参考にスライドを作成する。 ○学年内の発表会を行う。「まとめ・表現」	＜ヒューマン・ウィーク＞ ○社会体験学習 ○社会体験学習の学びをスライドにまとめる。 ○企業の方を招いたワークショップ ・ヒューマン・ウィークのまとめの発表や座談会	＜ヒューマン・ウィーク＞ ○収集した情報を整理・分析し、新たな課題を立てて実践を進めていく。 ○実践の内容に関わる地域の方や専門家と連携していく。		
9	「はじめの一步を踏み出す私」	「私たちが考える『災害に負けないまち』」	○課題の設定 ・ヒューマン・ウィークを終えて見えてきた問題点や課題点を更に修正し、当日に向けて準備を進める。		
	○問題発見 ・これからの自己の生き方を考えていくために、現在に至るまでに、自分が何を経験し、どのようなことを大切にしてきたかを考える。	○問題発見 ・クロスロードの実施 ・地域のハザードマップを基に、危険箇所や避難所を調べたり、マイタイムラインを作成したりする。 ・講演会 災害復興対策企画委員会 柳見澤 宏 さん	○まとめ・表現 ・実践報告レポートの作成 ・学級内、学年内の発表を行う。 ・友の感想やアドバイスを基に発表の仕方や内容について修正点を明確にし、再検討する。 ・社会で働く方への発表。 ・単元の振り返り。		
10	○課題の設定 ・生まれてから現在までの自分史マップをつくるためにどのような情報が必要か考える。	○課題の設定 ・対象者は、避難や避難所生活において、どのような不安や不自由さをもっているのだろうか。	○まとめ・表現 ・「私へのメッセージ」		
	○情報の収集 ・家族へのインタビュー（生まれたときの様子、家族の思い等） ・過去の資料などから情報を収集する。	○情報の収集、整理・分析 ・疑似体験、インタビュー、インターネット等で情報を収集し、分類する。	○3年間の総合的な学習の時間で得た知識や考え方、経験を振り返り、自分自身にどのような学びや成長があったかを振り返る。		
11	○整理・分析 ・収集した情報を時系列に整理する。 ・当時の自分が感じていたことや家族や友の思いを分類して整理する。	○まとめ・表現 ・調べた内容を友と共有する。	○自分は将来何を指すのか、これからすべきことは何か、どのような大人になりたいかを卒業レポートとしてまとめる。		
	○まとめ・表現 ・作成した自分史マップを振り返って考えたことやこれから大切にしていきたいことをまとめ、友と共有する。	○課題の設定 ・「災害に負けないまち」に向けて、整理した情報の中から発信する内容を検討する。 ・発信に向けた構成、内容の見直しをもつ。	○後輩や保護者への発表に向けて準備を進める。		
12	○課題の設定 ・上記の学習で見いだした、大切にしていきたい生き方を基に、追究したい課題を設定する。	○情報の収集、整理・分析 ・発信に向けた資料を作成する。	○発表の場として考えられるもの ○自分たちで学年内の発表会を企画し、実施する。 ○後輩へ向けた発表を行う。 ○近隣の高校と連携する。 ○冊子にまとめる。(データ化、文集等) ○信州 ESD コンソーシアムで成果発表を行う。		
	○情報の収集 ・橋本佐内「啓発録」	○まとめ・表現 ・情報収集をした方に資料を見てもらう。			
1	○整理・分析 ・共感できる点、できない点等で情報を分類し、その根拠を示す。	○課題の設定 ・頂いたアドバイスを基に、作成した資料の修正点を検討し、完成に向けた見直しをもつ。			
	○まとめ・表現 ☆学習を振り返り、自分の大切にしたい考え方や生き方を問い直し、「私の啓発録」としてまとめる。	○情報の収集、整理・分析 ・資料を完成させ、地域に発信する。 ※閲覧板、パンフレット、HPなど			
2		○まとめ・表現 ・単元を通して学んだことを友と共有する。 ☆災害時の諸問題を地域における自己の生き方との関わりで考える。			
3					

3 総合的な学習の時間の研究テーマ

自ら課題を設定する力を高める学習の在り方

4 単元名・学年 「私の『14歳の問い』」・2年

5 単元の目標

よりよい生き方を追究するために、地域で働く人々の生き方や価値観に触れることを通して、自己の生き方を問い続けていくことが、日々の生活の目的や意味を見いだすことに気づき、これからの自分の生き方を地域で働く人々の生き方との関わりで捉えることができるようにする。

※『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校 総合的な学習の時間』によると、総合的な学習の時間の目標は、「内容のまとまり」を基に、総括的に目標を示すとともに、資質・能力の三つの柱を構造的に配列し、単元の目標としているため、本校他教科の学習指導案の単元の目標とは異なる表記をしている。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 これからの自分の生き方を地域で働く人々の生き方との関わりで考えることは、日々の生活の目的や意味を見いだすことにながると気付いている。</p> <p>知 地域で働く人々の生き方とその理由を考える学習が、自己の生き方に深く関わっていくことを理解している。</p> <p>技 収集した情報を分類し、分かりやすい方法で表している。</p>	<p>思 自分で課題を設定し、解決の</p> <p>① 見通しをもっている。</p> <p>思 必要な情報を明確にし、目的</p> <p>② に合った方法で情報を収集している。</p> <p>思 目的に合わせて情報を分類</p> <p>③ したり、効果を意識して表現方法を組み合わせたりしている。</p> <p>思 目的に応じて、自分の考えを</p> <p>④ まとめ、適切な方法で表現している。</p>	<p>態 課題解決に向けて見通しをも</p> <p>① ち、粘り強く取り組み、活動を振り返りながら、次時の活動に生かそうとしている。</p> <p>態 自分の意思で、課題の解決に</p> <p>② 向かって、活動に取り組もうとしている。</p> <p>態 地域で働く人々が大切にして</p> <p>③ いる生き方と自分との関わりに関心を持ち、今後の学習や生活の在り方を積極的に考えようとしている。</p>

7 総合的な学習の時間係として、全校研究テーマに迫るための仮説

(1) 重点1に関わる仮説

・講演会や社会体験活動を通して、地域で働く人々が大切にしてしている生き方とその理由を知り、課題を解決する過程を繰り返す展開を位置付ける。このようにすることで、「探究的な見方・考え方」を働かせ、解決した自分の課題を基に、新たに考えたい課題をもつことができ、地域で働く人々の生き方を自分との関わりで捉えることにつながる。

(単元)

・地域で働く人の生き方とその理由を踏まえて、課題に対する自分の考えを友と伝え合う活動を位置付ける。このようにすることで、自分が大切にしたい生き方を捉え直したり、新たな課題(問い)をもったりすることができる。(本時)

(2) 重点2に関わる仮説

・単元の終末、単元の目標に対する自分の考えをまとめた上で、自己の生き方を考えるために、課題が更新されてきた理由を考える場を位置付ける。このようにすることで、地域で働く人々が大切にしてしている生き方に触れ、自分との関わりで考えてきたことで、新たな課題を設定することができたことを自覚し、これからも自己の生き方を問い続けていこうとすることができる。

8 単元展開 地域で働く人々の生き方を自分との関わりで捉える学習

全 35 時間扱い 本時は第 5 時

段階	◆学習		評価の観点	時間
	教師の指導・支援	予想される生徒の反応		
導入	◆自分が大切にしたい生き方を追究する、という単元の見通しをもつ。		思知 ①① (ワークシート)	1 2
	<ul style="list-style-type: none"> 1年時の「私の啓発録」にまとめた、自分が大切にしたい生き方を想起し、よりよく生きるとはどういうことかを考える場を設ける。 アのような反応から、単元の目標「自分が大切にしたい『生き方』を追究しよう。」を設定する。 追究したいことを明確にするために、中小企業家同友会の方の講演会を設ける。 	<p>ア よりよく生きる、とはどういうことだろうか。「私の啓発録」には、挑戦することを自分の生き方としてまとめたが、私はあまり挑戦することができていない。挑戦することは、よりよく生きることにつながっていくのだろうか。</p> <p>イ 自己の生き方を明確にしていくためには、どのようなことを追究したらよいのだろうか。実際の社会で働く人は何を大切にしているのだろうか。</p> <p>ウ お話を聞いて、やはり私は自分ができていない挑戦することについて考えてみたい。そもそも、「挑戦する」とはどういうことなのかを、まずは追究してみたい。</p>		
展開	◆地域で働く人の生き方に触れ、課題に対する自分なりの答えを見いだす。		思思 ③② (ワークシート)	3 4
	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題を解決するためのヒントを得るために、地域で働く人(元プロサッカー選手)の講演を聞く場を設ける。 講演会を聞いて、感じたことや考えたことを踏まえて、課題に対する自分の考えを友に伝えるために、簡単にスライドにまとめるように促す。 	<p>エ 私は、挑戦するということは、体当たりで何でもぶつかっていくようなイメージだったが、大橋さんの話を聞いて、「挑戦する」とは、本当の意味で問題を解決するために自分が何をすべきなのかを考えて行動することだと感じた。</p> <p>オ 講演を聞く前に考えていた私の課題→講演を聞いて感じたこと→今思っていること、というように、自分の考えの変化が伝わるようにスライドにまとめていこう。私は、「挑戦すること」を視点に講演会を聞いていたが、他の友は何を視点して講演会を聞き、どのようなことを感じたのだろうか。</p>		
展開	本時のねらい：自分が大切にしたい生き方を捉え直したり、新たな課題をもったりする。		思態 ①① (ワークシート)	5(本時)
	<ul style="list-style-type: none"> どのような課題をもって、大橋さんの話を聞いたのかを尋ねたり、大橋さんの話を聞いて感じたことを尋ねたりする。 カのような反応から、学習課題「大橋さんの生き方から見えてきた、自分の課題の答えを友と伝え合おう。」を据える。 グループ内で一人ずつスライドを使って発表し、共感する点を述べたり、疑問に思ったことを述べたりするように促す。 数名の生徒の考えを述べるように促した後、課題に対する自分の考えをまとめる場を設ける。 本時を振り返り、分かったことや考えたことを書くように促す。 	<p>カ Aさんは、相手の立場に立つためにはどうすればよいかという課題をもって、大橋さんの話を聞き、まずは相手の立場に立とうとするその姿勢が大切であることを言っていた。相手の立場に立とうとするということも、私が考えたい「挑戦する」ということに関わってくるのだと思うので、他の人の考えを聞いてみたい。</p> <p>キ 大橋さんの話から、挑戦するということは、闇雲に何でもやるのではなく、目的を明確にして、そのために何をするのか見通しをもっていくことなのではないかと思う。ただやってみるだけでは、本当に問題を解決しようとしていくことにつながっていかない。</p> <p>ク Bさんは私の考えを聞いて、いろいろ考えていると何もできなくなってしまふから、場合によってはまずはやってみることも大切なのではないかと伝えてくれた。挑戦する中でも苦しくなった時に、どうしていけばよいのかというCさんの疑問は、自分もそう思う。</p> <p>ケ 「挑戦する」とは、目的を明確にし、そのために何をするのか見通しをもっていくことに変わりはないが、その時に、苦しいこともあると思う。本当に挑戦できるかどうかは、そういった時にこそ試されると思う。だから、その目的をしっかりと持っていることで、最後まであきらめずにやり続けていくことができるのではないかと。私も目的を明確にし、本当の意味で挑戦していきたい。</p> <p>コ 友と考えを伝え合って、まずはやってみることも大事だという意見をもらうなど、自分とは違う考え方を聞く</p>		

	<p>ことで気付くこともあった。目的に向かって見通しをもっていくことも挑戦だし、まずやってみることでその意味や価値を見いだすこともあると思う。</p> <p>・社会見学において、地域で働く人々の話を聞く機会があることを伝え、どのような課題をもって臨みたいかを問う。</p>	<p>サ 地域で働く人は、現在に至るまでにうれしいことばかりではなく、大変なこともたくさんあったと思うけれど、そういう時にどうやって物事に挑戦し続けていくことができたのかを聞いてみたい。</p>		
展 開	<p>◆前時までにもった課題の解決に向け、社会見学で情報を収集しまとめる。</p> <p>・課題の解決に必要な情報を社会見学で収集するように促す。</p>	<p>シ 私は園児に声を掛けられたとき、恥ずかしさがあり、大きな声と動きで応えることができなかった。保育士さんは、私のようにうまくいかないことがあったのだろうか。</p> <p>ス インタビューでは、子どもの頃は大人しい子で私のように引っ込み思案だったと教えてくれた。夢は別にあったようだが、園児と接する中で積極的になれたことを教えてくれた。</p>	<p>② 思 (ワークシート)</p>	6 〜 9
	<p>・社会見学で得た情報を基に、自分の課題に対する答えをまとめるように促す。</p>	<p>セ 保育士さんは、ご自身の経験から、『本当に恥ずかしいこと』とは、できるのに自分の力を出さないこと』と言っていた。私はこれまで、できないのではなく、やらなかったことが多々あったことに気付いた。今から振り返ると、目的は明確だったのに、自分の力を出さなかったことがこれまでもあったように思う。</p> <p>ソ 保育士さんも、はじめは今のよう態度で子どもたちと接することができなかったそうだ。それでもこの仕事を続けて、よりよい保育を行うことに挑戦することができたのは、子どもたちの笑顔や周りの人の支えがあったからだということを知ってくれた。挑戦し続けていくためには、自分の回りにいる人の存在が欠かせないと思った。しかし、それだけで私も同じことができるのかまだ不安がある。</p>	<p>① 思 ④ 技 (ワークシート)</p>	10
	<p>◆社会体験学習を通して学んだことを自分が大切にしたい生き方と関わらせてまとめる。</p> <p>・社会体験学習で、自己の生き方に関わる課題を追究するために、社会で働く体験をすることを確認する。</p>	<p>タ 社会体験学習では、「挑戦する気持ちを支えるものは何か」について追究していきたい。商品販売店で、初日は主に清掃とお客さんの案内をしたが、大きな声で挨拶をすることができなかった。しかし、レジ打ちした時に、お客さんにお礼を言われ、うれしくて大きな声で「ありがとうございました」と言えた。勇気を出して行動してみることが自信につながり、さらなる行動につながりそうだと感じた。</p>	<p>② 熊 ② (ワークシート)</p>	11 〜 34 【ヒューマン・ウィーク】
	<p>・社会体験学習から学んだことをまとめ、友と共有したり、企業の方を招いたワークショップを行ったりする場を設定する。</p>	<p>チ うまくいかないことでも挑戦し続けていくことで、お客さんからお礼を言われて、それが自信となって、もっと色々なことに挑戦したいという意欲につながると思う。自分なりに考えた答えに、企業の方も賛同してくれたのでうれしかった。</p>	<p>③ ④ 思 (ワークシート)</p>	
終 末	<p>◆地域で働いている人々が大切にしている生き方に触れ、自分との関わりで考えたことで、新たな課題を設定することができたことを自覚し、これからも自己の生き方を問い続けていこうとする。</p>			
	<p>・単元の目標に対する自分の考えをまとめた上で、自己の生き方を考えるために、課題が更新されてきた理由を考える場を設ける。</p>	<p>ツ 目的を達成するために、見通しをもって挑戦することで、自分の周りには誰かがその支えとなって、挑戦し続けることにつながっていくのだと思う。そして挑戦して得たことが今後の自分につながり、さらなる挑戦へと続いていくのではないかと思った。</p> <p>テ 自分なりに大切にしたい生き方は元々あったが、社会で働く様々な人の話を聞く度に、自分なりに考えを深めていくことができたのではないかと思う。さらにいろいろな人の考え方に触れていくことで、よりよい生き方とはどういうものか考えていきたい。</p>	<p>③ 熊 ② (ワークシート)</p>	35

9 資料

(1) ヒューマン・ウィークについて

自己の課題の解決に向けて、7月の約一週間程度（令和4年度は4日間）をすべて総合的な学習の時間に充て、「人・もの・こと」と直接関わりながら、自己の生き方に対する考えを深めていく期間。以下は、令和3年度のヒューマン・ウィークの様子。



図1 「持続可能な社会の実現に向けて」において近隣の河川でゴミ拾いをする様子



図2 「私の『14歳の問い』」において食品製造会社で社会体験学習を行う様子

(2) 橋本佐内と啓発録



(橋本佐内肖像 Wikipedia より)

橋本佐内（1834～1859）

福井藩の医師の長男として生まれ、藩医を経た後、二十二歳で福井藩主松平春嶽の側近として登用される。在任中は藩の政治、国の政治に大きな関わりをもつようになった。安政6年、安政の大獄により斬首となる。

「啓発録」佐内が14歳（数え年15歳）のときに、それまでの生き方を省み、その後の指針として5項目を定め、著したもの。

【啓発録】要約

- 一、稚心を去る：稚心とは、子どもじみた心のこと。立派な武士になるためには、第一に稚心を去らなくてはならない。
- 二、気を振る：気とは、人に負けないと思う心と、負けることを恥ずかしいと知り、悔しいと思うこと。常にそうした心をもって、その精神を振るい立て、振り起こし、絶えず緊張を緩めず油断のないように努力しなくてはならない。
- 三、志を立てる：志とは、自分の心の向かうところに突き進んでいくこと。一度決心した後は、まっすぐにその方向を目指し、絶えずその決心を失わないように努力しなくてはならない。
- 四、学に勉む：学とはなろうということ。先人の優れた行いを見習い、自らもそれを実行しなくてはならない。
- 五、交友を択ぶ：交友とは自分が交際する友人のこと。なかでも大切なのは、自分の悪いところ遠慮なく指摘してくれる益友ほど得がたいものはなく、何においても大切にしなければならない。

参考文献

- ・橋本景岳（佐内）／伴五十嗣郎全訳注（1982）『啓発録一付 書簡・意見書・漢詩』講談社